

朝霞台中央総合病院

移転工事終え新春開院

新名称「TMGあさか医療センター」

首都圏で病院や介護老人保健施設などを運営する戸田中央医科グループ(TMG)の医療法人社団武蔵野会

が、朝霞市溝沼の旧東洋大朝霞キャンパス総合体育館跡地に建設を進めてきた朝霞台中央総合病院の新築移転工事がこのほど完了した。来年1月1日から「TMGあさか医療センター」と名称を変えオープンする。

1977年に開業した現病院は増改築や診療科の増設などを行ってきたが、県南西部地区の人口増により手狭になったため、行政の支援なども受けて7階建ての新病院建設を進

めていた。病床数は従来の326床から446床に増床。緩和ケアや歯科口腔外科などが加わり計26診療科体制になったほか、国内でも数少ない専門治療ができる「てんかんセン

ター」や8室の「手術室」などを整えた。

1、2階は外来診療で、混雑状況に応じてあらゆる診療科の形態に変化できる「ユニバーサル仕様」の診療室が並ぶ。

3階には集中治療室や手術室、4、5、6階は

据え置き型収納家具で間仕切られ、広くゆとりとした4人床の病室
来年1月1日にオープンするTMGあさか医療センターいづれも朝霞市溝沼で

病棟で、4人床は従来のスペースを大きく上回る病床面積を確保した。据え置き型収納家具で間仕切りするなど、開放的で温かみのある院内となっている。

病院関係者は「高度医療が可能になったほか、災害時に対応するため廊下の壁に医療設備を設置し、避難場所としても利用できる広い駐車場も整備した。地域の安心安全に寄与したい」と話した。

